

100 年前の手紙から読み解く防災と世界平和

関東大震災への支援に感謝の手紙を書いた

約 700 人の学生の子孫を探すプロジェクトを開始

【発表のポイント】

- 関東大震災発生後にはアメリカから多大な支援が寄せられ、日本からはその返礼として学生たちがアメリカ国民へ感謝の手紙を書きました。東北大学災害科学国際研究所と一般財団法人世界防災フォーラムの合同チームは、700 通以上の手紙がアメリカに現存することを 2023 年に確認しました。
- それらの手紙には、感謝の気持ち以外に、日米友好と世界平和の願いも綴られていました。この交流は震災時に展開された「災害外交」の好例と評価でき、今日の国際防災にも大きな示唆を与えます。
- 世界防災フォーラムでは、この調査研究を発展させるため、手紙を書いた学生の子孫を探すプロジェクトを開始しています。

【概要】

1923 年 9 月の関東大震災発生後、日本には世界中から援助が届きました。中でもアメリカからは莫大かつ迅速な「前例のない人道支援」が行われました。震災当時の日米関係は必ずしも良好ではありませんでしたが、両国はこれに機に関係改善を目指し、日本からアメリカに様々な形で感謝の意が表されました。その一つが、日本の学生たちからアメリカ国民に対する感謝の手紙の送付です。

東北大学災害科学国際研究所の川内淳史准教授（歴史学）らと世界防災フォーラムは合同調査により、744 通の感謝状が震災当時のアメリカ大統領であったカルビン・クーリッジの子孫のもとに保存されていることを明らかにしました。手紙には感謝の気持ちの他、日米友好と世界平和への願いが込められており、「災害外交」の一環と捉えることができます。

本研究成果は 2025 年 2 月 1 日、学術誌 Journal of Disaster Research に掲載されました。当時手紙を書いた学生の子孫を探す「100 年前の手紙プロジェクト（クーリッジ未来プロジェクト）」の詳細は 3 月 7 日から 9 日に仙台市で開かれる「世界防災フォーラム 2025」の展示ブースにて報告されます。

【詳細な説明】

研究の背景

1923 年 9 月 1 日に発生した関東大震災では、東京・横浜を中心とした激震被災地に対して、世界各国から同情の声と多くの支援が寄せられました。なかでもアメリカ合衆国からは最も多く、莫大かつ迅速な「前例のない人道支援」^(注 1) が寄せられました。

当時の日米関係は、アメリカ国内での日本人移民排斥の動きや日本の中国大陸への進出をめぐる日米間の緊張などにより、必ずしも良好ではありませんでした。しかし 1905 年の東北大凶作や、1906 年 4 月のサンフランシスコ大地震時には、日米双方が災害相互支援を行っており、関東大震災時においてもアメリカ国民が日本を救援する大きな要因となりました。これに加えて、関東大震災当時のアメリカ大統領であったカルビン・クーリッジは、人道主義的立場により日本への支援に対するリーダーシップを発揮し、その結果、アメリカによる「前例のない人道支援」が実現しました。

この大震災時における支援を好機として、日米両国は両国民の友好を促進させることで、両国間の関係改善を目指しました。日本側からは、アメリカからの支援に対する感謝が様々な形で示され、その一つが、当時の学生たちからアメリカ国民に対して送られた感謝の手紙です。

今回の取り組み

学生たちの約 900 通にのぼる手紙が震災の翌年にアメリカに送られたことは、これまでの研究でも言及されてきました。しかし、手紙の原本は長らく行方不明となっており、その実態は明らかにされていませんでした。関東大震災から 100 年後の 2023 年、この手紙がアメリカ・バーモント州のクーリッジの子孫宅に保管されていることが判明し、同年 8 月、災害科学国際研究所の川内淳史准教授（歴史学）らと世界防災フォーラムによる合同調査により、手紙の原本の存在が確認され（図 1）、実際にアメリカに送られた手紙は 744 通であったことが判明しました。

合同チームでは、これらの手紙を全点デジタル化して、差出人の特定と内容の分析を行いました。その結果、手紙は被災地の学校のみならず、東北から九州までの広い範囲の学校から送られていたこと（図 2）、また、その内容には、アメリカの支援に対する感謝の気持ちが表されているだけでなく、日米友好と世界平和を願う気持ちが込められていました。すなわちこの手紙は「災害外交」^(注 2) の一環として評価でき、今日の国際防災や災害支援に対しても大きな示唆を与えるものであると研究グループは考えています。

今後の展開

本研究の成果を踏まえて、さらに研究を発展させるため、世界防災フォーラムでは、当時手紙を書いた学生の子孫を探す「100 年前の手紙プロジェクト

（クーリッジ未来プロジェクト）」を開始しました。学生が手紙を書いたいきさつ、手紙に込めた思い、後年の本人の活動等を調査し、この手紙が送られてから 100 年後の私たちが得るべき国際防災や世界平和に向けた教訓を探りたいと考えています。

子孫と思われる方は、まだ一人も見つかっていません。お心当たりの方は、下記のサイトへアクセスの上、ご連絡ください。当時、手紙を書いた学生の在籍していた学校名一覧をサイトに掲載しています。手紙を書いた個人名は、ローマ字表記では判明しており、心当たりの方からお問い合わせいただければ、個人情報に配慮したうえで照合・確認を行います。

また、2025 年 3 月 7 日から 9 日に仙台市で開催される「世界防災フォーラム 2025」の展示ブースにおいて、本プロジェクトの詳細を報告する予定です。少しでも心当たりや情報をお持ちの方は、展示ブースをぜひご訪問ください。

プロジェクトは長く継続していきます。新たな発見等、ウェブサイトで発信していきます。

「100 年前の手紙プロジェクト（クーリッジ未来プロジェクト）」ウェブサイト
<https://worldbosaiforum.com/project/letter-project/>



図 1. アメリカ・バーモント州に保管されていた手紙の原本



図 2. 手紙を書いた学生の学校所在地（青森県、福島県、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、静岡県、愛知県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県、大分県）

【謝辞】

この研究は東北大学災害科学国際研究所災害レジリエンス共創センターの助成により一部支援されました。

【用語説明】

注1. 前例のない人道支援：関東大震災時のアメリカの対日支援は、震災発生 4 日後の 9 月 5 日には救援物資輸送船が横浜に到着したという迅速さや、総額 1,060 万ドル（現在の価値で約 100 億円以上）におよぶ義捐金をはじめとする膨大な救援金品のほか、それらの用途は基本的には日本側の裁量に委ねる決定をしたという点で、当時にあってはまさに「前例のない人道支援」と呼ぶべきものでした。

注2. 災害外交（Disaster Diplomacy）：災害時の国際支援を、支援国と受援国との関係改善・友好促進につなげるなど、外交政策の一環として捉える視点。

【論文情報】

タイトル : The Great Kanto Earthquake and U.S.-Japan Relations: Japanese Students' Thank-You Letters Sent to the United States and Their Implications for International Disaster Risk Reduction Cooperation

著者 : Atsushi Kawauchi*, Natsuko Chubachi, Ken Yoshino, Soraya Ono, and Yuichi Ono

***責任著者** : 東北大学災害科学国際研究所 准教授 川内淳史

掲載誌 : Journal of Disaster Research vol.20 no.1, pp.63-80

DOI: <https://doi.org/10.20965/jdr.2025.p0063>

【問い合わせ先】

(研究に関すること)

東北大学災害科学国際研究所 准教授 川内淳史

TEL: 022-752-2142

Email: atsushi.kawauchi.a8@tohoku.ac.jp

(子孫をさがすプロジェクトに関すること)

(一財)世界防災フォーラム 事務局

TEL:022-263-1688

Email: info@worldbosaiforum.com

(報道に関すること)

東北大学災害科学国際研究所 広報室

TEL: 022-752-2049

Email: irides-pr@grp.tohoku.ac.jp